

魅力創造人

みりよくそうぞうにん

第1回

このページでは市内の施設や催しを支える方にインタビュー。働く姿や思いを通じて、札幌の魅力に迫ります。

円山動物園 飼育員

清水道晃さん

平成21年に市職員となり、平成24年4月からホッキョクグマの飼育担当として働いている。

札幌といえば「円山動物園」と言われるくらい、市民が自慢できる場所にしたい

清水さんが飼育員を目指したのは、今からおおよそ10年前。円山動物園の非常勤職員として働いたことがきっかけだった。閉園後、エゾモモンガの滑空訓練をしていたとき、「この様子をお客さんにも見てもらいたい」と思い、発案して実際に披露したところ大好評。動物の魅力に改めて感動し、人と動物をつなぐ仕事を続けていきたいと考え勉強した。

特に出産時期はいつも以上に気を遣うよう心掛けているそうで、母熊がリラックスできるように距離を置きながら作業するなど、試行錯誤を重ねながら信頼関係を築いてきた。そんな清水さんにとって原動力の一つとなっているのが来園者の存在だ。「驚くほどファンが多く、毎日のように通ってくれる人もいますよ。今はララとリラの母子が寄り添って遊ぶ様子にも注目して、ゆっくり見て行ってほしいですね」と語る。

イベント情報

ホッキョクグマに氷をプレゼント

3トンにもなる氷で体を冷やしたり、氷の中にある果物を食べたりする姿を間近で見ることができます。

日時 8/27(日)14時30分～15時30分

申込 当日直接会場(世界の熊館)へ

そのほかの円山動物園の催しは14ページをご覧ください



▲氷に前足を立てて気持ち良さそうに涼むキャンディ

円山動物園

開園時間 9時30分～16時30分。入園は16時まで
休園日 第2・4水曜(祝日の場合は翌日)

所在地 中央区宮ヶ丘3

入園料 600円。中学生以下無料。年間パスポート 1,000円

交通機関 地下鉄東西線「円山公園」駅から徒歩15分、円山バスターミナルからジェイ・アール北海道バス[円15]動物園線に乗り、「動物園前」下車、徒歩1分

駐車場 959台、普通車700円

詳細 ☎621-1426

雄のデナリが餌の馬肉を食べる姿を見守る清水さん。デナリは遊び好きで人懐こく、放飼場のプールに飛び込んだり、来園者の方に近づいていったりする姿が見られることも。